

令和6年度 第6回 いいだ未来デザイン会議 会議資料及び議事録

令和6年7月5日
丘の上結いスクエア 2階 ムトスparaざ 多目的ホール

第6回いいだ未来デザイン会議 議事録

1 開会

【三浦委員長】

本会議も6回目となり、だいぶ回数を重ねてきたところ。気温も湿度も高く、健康管理に気を付けなければいけない過ごしにくい季節になってきた。SDGsの勉強会では、温暖化対策と並行して環境に適応していく対策も求められてきていることの話もあった。飯田広域消防本部からは、昨年の熱中症による救急搬送は150人を超えており、直近10年間で最多を記録していると聞いている。委員の皆様におかれても、仕事終わりの疲れている中での会議ということで、健康管理には十分にご留意いただくようお願いしたい。

前回の会議では、若年層との意見交換を踏まえて持続可能な地域を創造していくための4つの視点について議論していただいた。多少の修正点はあったが、大きな方向性は共有したところかと思う。今回の会議では、4つの視点を基に事務局で策定を進めている後期計画での現段階での素案を提示いただき意見交換したいと考えている。事務局からの説明を聞いた後に、建設的な意見を出していただきたい。

2 議事

(1) 第5回いいだ未来デザイン会議の振り返り

【企画課長説明】

【三浦委員長】

修正の必要がある場合は事務局へご連絡いただきたいと思う。

(2) いいだ未来デザイン2028後期計画 素案(案)について

【企画課長説明】

【三浦委員長】

持続可能な社会を創造するための4つの視点を確認した上で、計画期間を4年間とし、後期計画の中核となる基本目標の枠組みについて現段階での考え方をお示しいただいた。

素案について、今後どのような扱いになるのか、スケジュールを含めて教えていただきたい。

【企画課長】

今回の意見交換を踏まえ庁内において加筆修正を行った上で、素案として議会に提出していきたいと考えている。

【小林委員】

竜丘の自治会における最大の目標は、子育て支援であると思っている。4つの視点はとてもよくまとまっているため、しっかりと読み込んだ上で、竜丘地区での子育て支援につなげていきたいと思う。出生率が低下している中で、人手が必要なときにどうしていったらいいか。学校でも9つの地域制にしていく流れもあるが、どうしたら子どもにとって一番幸せかを考える必要がある。

【企画部長】

今回は、基本目標の卵という言い方をしているが、どのようなことに力を入れていくか、どのような考え方で力を入れていくかについてご意見をいただいている。小林委員の意見は「飯田で育てて・育ててよかったと実感できるまちづくり」に関係する。この言葉は、若者との意見交換の中で

こどもから見たときの視点がとても大事ではないかという意見をいただき、そのような想いで記載している。小林委員の意見は、親側の視点、こども側の視点の双方向からの視点が大事なのではないかというものだと思う。「飯田で育てて・育ててよかったと実感できるまちづくり」は、こどもを中心に置いたときの施策、教育の施策など生まれてから様々なステージにわたって成長していくこどもに関するもので括らせていただいたところ。

【中村委員】

素案について、とてもよくできたというのが率直な感想。長期ビジョンを作成するにあたり、最初にコンパクトなものを作ってしまうと、素案も実行計画もおもしろみがなくなってしまう。今回の会議は、飯田市はどんな山に登るか、その時にどんなツール、アイテムを使うのかを決めるところだと思う。じっくり見ると漠然とした素案にも見えるが、これからアイテムを拾いながら絵を描いていくには良い。いろいろな分野から全部を網羅していくのではなく、アイテムの深堀やつなぎ合わせを考えてみんなで同じ山に登っていくとした時には、とても良い作りになっている。若い世代、専門分野の方、高齢者など誰にでも自分に合ったものが必ずある、自分の目標がどこかには落ちていると思う。これからの活用に期待している。

【高橋委員】

4つの視点がとても良いと感じた。結いのまち飯田がともしっかりくる。また、7つのアウトラインがすっきりしていて、いろいろなものを包含しながらも、数的にもぎりぎり把握しきれんくらいの数となっていると思う。

【牧島委員】

若者の意見を聞き、反映した点がとても良いと思う。また、4つの「つ」から始まる言葉は素晴らしいキャッチフレーズになったと思う。つなぐは環境、つむぐは教育、つくるは産業経済、つどうでは主役は市民であることの投げかけになっている。さらに、7つに絞ったことも良い。前回の13の基本目標では、何に重点を置いて取り組むのがよく分からなかった。7つが数的に妥当であると思う。将来を見据えると、飯田市もコンパクト化をしていかなければならない。その準備をどこかで始めなければいけないが、どのタイミングでそのことを市民に共有するのかを考えて行く必要がある。

【和田委員】

4つの視点は非常によくまとまっていると思う。これまでの話合いを網羅できている。4つの視点がどの基本目標のアウトラインにつながっているのかが分かりやすいと良いと思う。

産業について、働く人の視点が足りていないのではないかと。良い産業を生み出していこうとすることは入れ込んでいただいているが、普通に働いて普通に暮らすという「安心して働く」という人側の視点を追加してもらった方が、親しみやすくなると思う。

【佐々木委員】

皆さんの意見と同様に、4つの「つ」や7つの基本目標のアウトラインについてはすっきりして分かりやすくなってきた印象を受ける。特に子育てについて、こども側の視点が入っていて市民に伝わりやすいと思う。産業についても、働き手側の視点で書けると分かりやすくなるのではないかと思う。労働者の所得増、人口減少が避けて通れない中での合理化、自治会公民館活動の取組の方向性について加筆すると、より市民に身近な計画になっていくのではないかと思う。

【企画課長】

自治会公民館活動の視点を戦略的に記載するにあたり、どこで色濃く出すかを検討しているところ。地域に誇りを持っていただくという視点、災害時の助け合いの視点などいただいた意見を参考にさせていただき、どこで表現するかは引き続き検討させていただく。

コンパクト化への対応についても、都市基盤として捉えることもできるし、7つの基本目標のアウトラインを整理する前提となっている人口減少への対応や若者の回帰率という当市の構造的課題として全てに取り入れているものと捉えることもできる。どこでどのように表現するかについて検討させていただく。

【永井委員】

「つどう」に変更したことで落ち着いた感じがして良いと思う。人口減少、若者が減る、意識の変化、自治会未加入など問題が多くある。自治会の加入率を増やすことも考えていかないと持続可能な地域にならない。自分たちの身の回りは自分たちで整えることが進んでいるのが飯田市の良いところだと思う。

若者との意見交換を含めて、いろいろな言葉が出てきたものをとてもよくまとめていただいている。すごく分かりやすい計画ができてきていると思う。7つの基本目標のアウトラインを並べていただいているのも分かりやすい。

【増田委員】

どこの会社も人手不足であり、特に製造業では深刻な問題になっていると聞いている。一方で、地域若者サポートステーションに相談に来る20～30代の若者は多いが、働ける場所がない。少しでも配慮がある職場であれば働ける子は多いが、企業側でここまでできないと必要ないと言われて受入れてもらえない現状がある。これからはシニア層も定年後の働き先が必要となってくる。どの年代においても生き生きと自分らしく働くことができるという視点がもう少し入ってきたら良いのではないかと思う。働くという中に優しい視点を取り入れてもらえると、今までの就業の枠に入れられない人にとっても採用側にとっても双方に良い流れができるのではないかと思う。

「飯田に育って・育ててよかった」について、幼少期でのかけがえのない思い出などが根付いていれば、いずれ帰ってきてもらえるのではないかという話がグループワークの中でも多く出されていた。小中学校での学びが、仕事や働くことに結びついていないというのが日本の特徴だと思う。

が、飯田の場合はコミュニティスクールがあるので、しっかりとキャリア教育で学んだことを形として残していくキャリアパスポートを活用し、かけがえのない思い出があったことが形として残るような取組があると良い。

【三浦委員】

きれいにまとめていただくことは大変だったと思う。4つの視点の中にある「誰もが豊かさも、」などの句読点が必要なのではないか。

組合加入率の話で、上郷では50%を切っているような状況の中で、これから地域をどうやって支えていくかが問題になってくるので、しっかりとお願いしたい。また、「飯田で育てて・育てて」の「育てて」は親の目線。ここは、子どもや若者の考え、意見が出ているところだとすれば、幼児期など小さな子どもの意見はどこに反映されているのか。親が共働きで大変なので預かってもらっているような実態を把握して、親を育ててほしい。親子のふれあいの中で小さな子どもを育てるようなところを組入れていくと、地域の中でも親が活躍してくれると思う。親を育てることを直接的には書きにくい部分があるかもしれないが、夏休みはせめて親が見てあげたい、子どもも夏休みぐらいは親に遊んでほしいと思っている。温かい子どもたちを思う心が抜けているのではないか。

【企画課長】

親の子どもに対する考え方、親を育てる視点をいただいたところ。書き方はもっと分かりやすく書く必要があるが、基本目標のアウトラインのねらいとして「親も一緒に育つ」を記載させていた。これは、虐待などの問題や保育に預けている時間の方が家庭にいる時間よりも長いことなどを含めて、まずは親を育てていきたいというねらいをもって表現させていただいたところ。そのことが伝わる表現について再考させていただく。

【福岡委員】

今回、委員が集まって作り上げていく、アイデア出ししていく初めての取組だったと思うが、こんな素晴らしくきれいにまとまるものなのだと驚いている。最初はどうなるのかと思っていたが、すごいなと感じ、良い経験になった。

言葉尻にはなってしまうが、4つの「つ」の「つむぐ」について、「育て育ち学びあい」を「育み育ち学びあい」という表現でも良いのではないか。また、基本目標の枠組みのタイトル「人を育て、呼び込み魅力的な産業をつくる」は、「人を呼び込み、育て、魅力的な産業をつくる」という順番の方が良いのではないかと思う。さらに、「自然を豊かにし、循環を基本に誰もが環境に配慮した暮らしをおくる」は、前半と後半が切れてしまっているため、「自然の豊かさと循環を基本に」という表現ではどうか。

【遠山委員】

若者と意見交換をした際の言葉が盛り込まれていることはとても良いことだと思う。特に、「飯田で育って・育ててよかったと実感できるまちづくり」における「こども若者の意見が政策等に反映されたことを実感できるようにします。」という宣言が行政からされることは珍しいことだと思う。若者やこどもの意見をすくい上げていこうという意思を感じる。

「リニア・三遠南信時代に選ばれる地域を目指した都市基盤を整備する」について、遠山郷に大きく影響がある三遠南信自動車道を入れ込んでいただいていることは、うれしく思う。また、霜月祭りなどの伝統芸能の継承についても、「市民が将来にわたり地域に誇りと愛着を持てるまちづくりを進める」の中で、「伝統文化を継承しながら、新たな文化を生み出す取組を支援します。」という記載をいただいております、南信州地域は文化芸能が根深い地域であるため、市の方針の中に入れ込んで進めていただきたい。

南信州という地域を見たときに、周辺町村との協力体制については大きく記載されていない。飯田市の計画に記載すべきかどうか分からないが、人口減少していく中で、他行政との協力体制は重要になってくると思う。

【企画課長】

他の町村との連携について、確かに視点として薄いと思われる。戦略として入れ込んでいくか、具体的な事業として入れ込んでいくのかを含めて検討していきたいと思う。

【福澤委員】

4つの「つ」については、良い形で納まったと思う。その上で、基本目標を13から7へ集約する必要があるのか。13の目標の中で力点を置きたいもののワードを変えるだけでも良いのではないかと思う。13だと多いのではという観点もあると思うが、今までもPDCAで評価をしながらやっている中で、継続性をもってやるべきところもあるのではないかと。7つに集約すべきと判断されたところは教えていただきつつ議論できれば良いのではないかと。

【企画課長】

13の基本目標の振り返りをしながら次へつなげていくことが大切だと考えている。これから4年間を考えたときに、今まで組立てて来た基本計画を基にして考えて良いのかどうか。振り返りをする中で次へつなげていく課題は引き継いでいくことはあるが、そこをベースにスタートするよりも、この4年間を見たときにまずは何が大切なのかの視点から基本目標の卵を考え、そこに振り返りからの必要な要素を入れ込んでいく方が良いのではないかと考えたところ。

委員の皆様と考えた4つの視点から考えた基本目標の卵を7つ置かしていただいているが、今後の議論の中で、増えていくことも出てくると思う。7つで確定しているわけではないため、今後の原案を考えていく中で検討していきたい。

【中田委員】

あれだけの話合いの経過がこれだけきれいにまとまったことに驚いている。ワークショップのやり方も大変参考になり、実際に同様にさせていただいたところ、みんなが平均的に意見でき、参加者からも良かったという感想をもらっている。

「地域のアセットを生かした」といったときの「アセット」、「リスクリング」というような言葉は調べないと分からない人もいる。こどもからお年寄りまで分かりやすい言葉にした方が良い。ただし、全てに括弧書きを入れると見にくく、また、新しい言葉を使うことも目立つということを考えるとそのバランスが難しいところだと思うが、検討いただきたい。

今回特徴的なのは、「飯田で育てて・育ててよかったと実感できるまちづくり」という中で、こども若者が主語に来ているねらいがあることが良いと思う。ただ、「こどもにとって家庭は最初の学校」と記載しているが、それがあまり反映されていないような気がする。親以外にも様々な大人が支えて地域のこどもが育っていくことは良いと思う。「親が」とあまり強く記載すると、今頑張っている親が圧力を感じ、これ以上何をすればいいのかという話になる。ここの記載の生かし方は大事になってくると思う。

防災が大きなポイントになっている。人と人のつながりの中で防災力を高めるということになると思う。地震などは私たちの力では防ぎようがないが、土地に絡む災害はもしかすると林業農業の分野によって守られる部分もあると思う。災害の中でも防げるものがある。産業分野でも防災につながられることはあるため、そういった視点も持ってもらえると思う。

【杉山委員】

言葉の説明について注釈を入れる必要があるのではないかなと思う。特に「ムトス」については入れていただきたい。ワークショップのときにも若者の中からムトスって何？という言葉が漏れていた。いろいろな人たちがこれから入れ替わり立ち替わり飯田市に来る、新しい世代もいるといったことを考えると、地元だからみんな知っているだろうとするのではなく、地域外の人にも分かるようにしていくと良いと思う。この計画は尖った形で作られていると思うので、独特な言葉が使われている。エネルギーのところでは、あえて地消地産と記載し、域産域消という言葉も出てくる。間違いではなくあえての記載なのであれば「」で囲うなど説明を入れると良いと思う。

創造を「つくる」と当て字していることが気になる。創るではいけないのか。何かこだわりがあるのであればその説明をしていただけると良いと思う。また、こどもの表記についても漢字と平仮名が混在していて、そのこだわりは何か説明してもらいたい。

人口減少と高齢化によるシルバーデモクラシーと言われる現代において、こどもを中心とした基本目標を立てているところは素晴らしく新しさを感じ、さすが飯田だと思う。

持続可能な地域を目指すというのがとても教科書的で、ほかの部分が飯田らしさで記載しているため、書いた方が良いのか書かなくても良いのか検討していただきたい。

計画期間については、4年間に賛同する。今回でも委員から様々な意見が出ている状況であるため、やはり4年くらいの期間でその都度微修正ができる方が良いと思う。

【和田委員】

4つの「つ」は浸透しやすさを考えて作ったものだと思うが、分かりやすいがゆえに、検索エンジンに入れてみると同様のキャッチフレーズを使っているものがある。どこかで見たことがあるなど思われてしまうかもしれない。ただ、変えてほしいわけではなく、職員だけが知っている計画にしようのではなく、いろいろな人が未来デザインはこういう計画だと知ってもらえるよう発信してもらいたい。

【企画課長】

基本目標の卵についてはこれから庁内において検討をさせていただく。

1点確認として、これまでは「結婚・出産」をキーワードとしてきたが、現在はその表現が薄くなっている。このことについて、もし意見があれば聞かせていただきたい。

【三浦委員長】

これは、あえて配慮して使わなかったということなのか。

【企画課長】

結婚に対する考え方は様々ある。行政として「結婚」を戦略としていくかについて、少し時代が変わってきているのではないかという考えもある。しかし、少子化という問題に対しては、そのスタートとなる結婚について1つの視点となるという捉え方もできる。どのように捉えるかということについて議論いただきたいが、現時点としては、それぞれの価値観から考えたときに「結婚」は行政の目標として置かなくても良いのではないかと考えている。

【中田委員】

もし「結婚」が目標に入っていたとすれば、自分だったら帰ってきたいと思わない。自分が決めることで行政が決めることではないと思う。結婚とこどもは別の話。目標にない方が良い。

【福澤委員】

中田委員の意見に同意で、古い思想であり後期計画には削除してしまって良いと思う。

【三浦委員長】

7つの基本目標の卵の中に、「結婚・出産」という言葉がなくても全く違和感はなかった。

いただいた意見については、直ちに素案の修正ができること、今後の検討の中で取り組んでいくこと、アイデアや意見としてお聞きしたことなどが混在してあったと思う。事務局にて整理してもらえればと思う。また、本会議から時間を置かず、素案の修正をした上で、市議会へ提出するということになる。本会議としては、直ちに修正できるものは反映した上で、今後の検討が必要なものは原案策定の際に参考としていただくものとし、素案について共有したこととしたい。

後期計画策定の考え方の確認 及び 検討経過

－ いいだ未来デザイン2028後期計画策定の考え方から(抜粋) －

後期計画の策定に際しては、基本構想に掲げる8つのまちの姿の実現に向け、いいだ未来デザイン2028の枠組の中で、中期計画での取組の継続性を担保しつつ、地域社会を取り巻く環境変化や社会変容を的確に捉えた新たな視点で計画を策定する必要があります。

人口減少、少子高齢化の緩和と適応、新型コロナウイルス感染症の影響を受けた地域より良い再興や価値観変容を踏まえた対応、原油や液化天然ガス等のエネルギー資源の価格高騰によるエネルギー危機から来るエネルギーミックスへの対応、ゼロカーボンシティに資する取組の加速、頻発する災害に対する防災・減災、地域循環による強い経済の構築など、地域の持続的な発展に向け、これらの課題を解決に導いていくことが求められています。

このためには、関係する多様な主体が連携し協働するとともに、事柄を多角的に捉え、横のつながりや他の事象への影響などを意識した統合的なアプローチが必要であると考えます。これは、誰一人取り残さない包摂的な社会の構築に向け、持続可能な開発を統合的に実施しようとするSDGsの考え方であり、この観点から、後期計画策定に向けた基本的な考え方を次のように定めます。

後期計画策定に向けた基本的な考え方

いいだ未来デザイン2028後期計画は、コロナ禍でダメージを受けた地域社会経済のより良い再興に向け、SDGsの考え方に基づく環境を基軸としたまちづくり等により、自立的で持続可能な地域を創造するとともに、魅力を高め、リニア時代を切り開く、新たな礎を築く計画を策定します。

後期計画の策定に向けた基本的な考え方

まちづくりの方向性の検討

左記した「後期計画策定に向けた基本的な考え方」に基づき、人口減少に対応し、少子高齢化を食い止めることを含めた自立的で持続可能な地域を創造していくための基礎を築いていく必要があります。

そのため、当市のまちづくりの行動理念「ムトスの精神」などを踏まえ、SDGsの考え方をベースに、未来を担う若年層を含む市民を交えて後期計画に定めるまちづくりの方向性について検討することを想定します。

計画期間の検討

後期計画の始期は、中期計画の計画期間に鑑み、2025（令和7）年度とします。

一方、終期については、リニア中央新幹線の開通時期の不透明化、地域を取り巻く環境の変化への柔軟な対応や次期総合計画策定の柔軟性等を考慮し、新たな視点であるSDGsの考え方に基づく課題整理等の過程において、総合的に判断し、定めることとします。

検討経過

－ 勉強会

- ・後期計画策定に向けた勉強会(少子化対策について) … 令和5年9月5日
- ・後期計画策定に向けた勉強会(DXについて) … 令和6年2月1日
- ・後期計画策定に向けた勉強会(SDGsについて) … 令和6年3月29日

－ いいだ未来デザイン会議

- ・第1回いいだ未来デザイン会議(GW) … 令和6年4月12日
- ・第2回いいだ未来デザイン会議(GW) … 令和6年4月30日
- ・第3回いいだ未来デザイン会議(全体会) … 令和6年5月16日
- ・第5回いいだ未来デザイン会議(まとめ) … 令和6年6月14日
- ・第6回いいだ未来デザイン会議(素案) … 令和6年7月5日

－ 若年層との意見交換

- ・Think about the Future あなたの声を聴かせて兼 第4回いいだ未来デザイン会議 … 令和6年5月26日

地域の資源を生かし・守り、次世代につなぐ視点

- ・守りつつも未来へ攻める
- ・今ある自然(資源)を生かし・残す
- ・飯田らしさを残しつつ魅力を増す
- ・再生可能エネルギーで孫と暮らす
- ・集約化を意識したインフラ構築

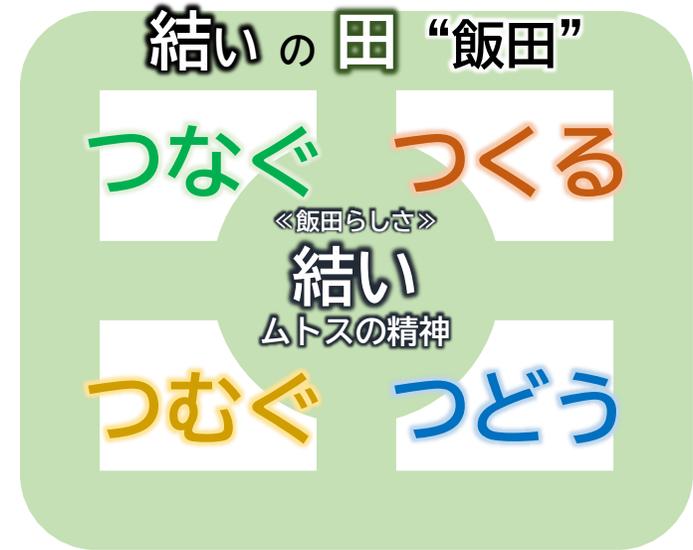
こどもやまごの未来を考えるまち / 飯田市の発展と自然のバランス / 再生可能エネルギー / エネルギーの地産地産 / 多様な果物 / りんごの産地であり続ける / ゼロカーボン / 森林資源の利活用 / 自然に癒される / 都会にない自然 / 手つかずの自然 / 水源地の確保 / 自分たちで食べられる / 地域の魅力発信 / 地域を知り、探し、活かす / 今ある良さを最大限生かす / 地域の財産の活用 / 特産品伝統文化の継承 / 祭りの伝承 / 文化(伝統文化) / 食文化 / 歴史 / 学生が案内する観光ツアー / 飯田の自然を生かす / 焼き肉 / 天竜川散歩 / 登山ができる / 里山の魅力がある / 涼める場所がある / 山を使ってキャンプ場 / お店など消費する場所が近いことで移動のCO2削減につながる / 二拠点居住 / 関わる人を増やす

育て育ち学びあい、支え合い、自分らしい暮らしをつむぐ視点

- ・飯田で育てて良かったと思える
- ・飯田らしい教育
- ・高齢者の活力あふれる
- ・選択肢の幅を狭めない
- ・好きに、自由に表現したい

医療・福祉サービスが充実 / 社会福祉の充実 / 子育てがしやすい / 子どもが思い切り遊べる / 子どもが安心して外で遊べる / 楽しい場所が多い / 保育園 / 子育て支援の充実 / 子どもの声が聞こえるまち / 魅力ある学校 / 教育レベルの向上 / 人材育成 / 学べる場所を増やす / 学校が多い / 学生が通える場所 / 娯楽施設の充実 / Uターン者が多い / 進学先が充実 / 子どもの成長を妨げない / 公園や学校に優しい / 高齢者が暮らしやすい / 安心して老後まで暮らせる / IT・デジタルで助ける / 公共交通の充実 / 商業施設が多い / 子どもも大人も / こどもから高齢者まで / ダイバーシティ / 女性も / 障がいのある人も / 外国籍の人も

持続可能な社会を創造するための視点



誰もが豊かさも、働きがいも感じられる、発展し続ける地域を創造(つくる)視点

- ・経済の循環、お金の回りが生まれる
- ・やりたい仕事がある、つくる
- ・安心して暮らし働ける
- ・新たな発想で変わる、変える
- ・集約化を意識したインフラ構築

エネルギー産業 / 起業 / 人的投資 / 省人化 / デジタル化 / IT化 / 観光 / 儲かる農業 / 仕事 / 交流 / 学び / やりがい / 自信が持てるモノづくり / 空き家・空き店舗の活用 / アフター5 / オン・オフで自分の時間が充実 / 地元の産業・企業 / ジビエ / 地域ブランド / 地産地消 / 子育て休暇 / いきいきと働き安心して生活ができる / まちの集約 / 土地・農地のメリハリ / お店が多い / 目指している職業の給料があまり高くない / 経済を支える労働人口が多い / いろんな職業を増やす / 伝統産業の発展 / 消費する場所が近くにある / 地域産業の発展 / 二地域居住をして自然の中で働く / 職業・就職先が広がる / 最低賃金を上げる / 公共交通の充実

人々が参加し、つどい、活躍できる視点

- ・持続可能な自治会・公民館活動
- ・若者が地域とつながる、活躍する
- ・暮らしに“あたたかさ”を増やす
- ・頼れる人がいる安心
- ・助け合いができる

人との関わりが欲しい / 地域のコミュニケーション / 挨拶・笑顔での関りを忘れない / 若者がお祭りを盛り上げる / 若者の活躍できる機会の創出 / 地に足のついた(都会化しない) / 町村連携強化 / 地域を広げる / 災害に強い / 安全・安心(防災) / 頼れる人がいる安心 / 安全・安心な生活基盤

基本目標を策定する際に大切に
する視点(案)

基本的な考え方(案)

- ① 4つの視点のバランス ② 関係する課題の同時解決(統合的アプローチ) ③ デジタル技術などを活用した社会変革

いいだ未来デザイン2028後期計画 素案(案)

－ 持続可能な社会を創造するための視点 －

都市化と自然をバランス良く

都市と自然の共存

今ある自然(資源)を生かし・残す

自然に癒される

今あるものをのばして都会と
差別化をはかる

飯田らしさを残しつつ魅力を増す

自然が活かされたまち

自然豊かなまち

きれいな自然を残す

山を使ってキャンプ場

耕された田畑が続く風景

集約化を意識したインフラ構築

農業・エネルギーに関する職の安定化

再生可能エネルギー及び蓄電システム
を地域の産業として定着させる

再生可能エネルギーで孫と暮らす

守りつつも未来へ攻める

きれいな自然を守る

北限南限の恵みの享受

地域の味が守られる里山文化

エネルギー・水・食料の地消地産

地形、自然、資源を探し、よく知り、使う

みんなが織りなす祭りや文化

粋な暮らし

信州の南の玄関口として日本中から愛される飯田

つなぐ

地域の資源を
生かし・守り、次世代に
つなぐ視点

飯田市の発展と自然のバランス / 自然に癒される / 都会にない自然 / 今ある良さを最大限生かす / 飯田の自然を生かす / 焼き肉 / 天竜川散歩 / 登山ができる / 里山の魅力がある / 涼める場所がある / 山を使ってキャンプ場 / お店など消費する場所が近いことで移動のCO2削減につながる / 学生が案内する観光ツアー

こどもやまごの未来を考えるまち / 再生可能エネルギー / エネルギーの地消地産 / 多様な果物 / りんごの産地であり続ける / ゼロカーボン / 森林資源の利活用 / 手つかずの自然 / 水源地の確保 / 自分たちで食べられる / 地域の魅力発信 / 地域を知り、探し、活かす / 地域の財産の活用 / 特産品伝統文化の継承 / 祭りの伝承 / 文化(伝統文化) / 食文化 / 歴史 / 二拠点居住 / 関わる人を増やす

いいだ未来デザイン2028後期計画 素案(案)

－ 持続可能な社会を創造するための視点 －

もっと便利に

多様な移動手段の確保

選択の幅を狭めない

学校の選択肢がある

「学びたい」が叶うまち

受動的かつ主体的なこども環境

こども主体の政策実現

「飯田(ここ)で育って良かった

!!」と子供が思える

子育てしやすいまち

最期を迎えたい場所

医療・福祉のサポート

挑戦しやすい環境

好きに・自由に表現したい

こどもから高齢者まで

高齢者の活力あふれる

安心して子育てできる暮らしやすいまち

こども目線を大事にする地域

こどもの居場所づくり

子育てしやすいまち

子どもを産み育てたくなる

子どものころからのわくわく体験

人を呼び込む学校づくり

飯田らしい教育

つむぐ

育て育ち学びあい、 支え合い、 自分らしい暮らしを つむぐ視点

医療・福祉サービスが充実 / 子どもが思い切り遊べる / 子どもが安心して外で遊べる / 楽しい場所が多い / 移動手段がたくさんある / 学べる場所を増やす / 学生が遊べる場所 / 娯楽施設の充実 / 商業施設が多い / 学校が多い / Uターン者が多い / 進学先が充実 / 子どもの成長を妨げない / 公園や学校に通いやすい / 高齢者が暮らしやすい / 子育てがしやすい / 公共交通の充実 / 商業施設が多い / 学べる場所を増やす / IT・デジタルで助ける / 安心して老後まで暮らせる

学生の活躍 / 魅力ある学校 / 教育の充実 / 教育レベルの向上 / 人材育成 / 子どもも大人も / こどもから高齢者まで / ダイバーシティ / 女性も / 障がいのある人も / 外国籍の人も / デジタル / 保育園 / 子育て休暇 / 子育て支援の充実 / 子どもの声が聞こえるまち / 社会福祉の充実

いいだ未来デザイン2028後期計画 素案(案)

－ 持続可能な社会を創造するための視点 －

お金がまわる街飯田

経済の循環、お金の回りが生まれる

しごとがある・働きやすい

仕事の種類が増える

多様な働き方を実現できる

選択肢の幅を狭めない

高齢者が働きやすい職場づくり

海外の人も働きやすいまち

安心して暮らし働ける

働いて収入を得ることは重要

楽しく生き生きと働く

移動手段が充実している

再生可能エネルギー及び蓄電システムを地域の産業として定着させる

農業・エネルギーに関する職の安定化

飯田発のイノベーションの創出

新たな発想で変わる・変える

デジタル化による生産性向上

人口減少時代には、一人一人の生産性向上が必要

生産性が高く給料が上がっていく企業がたくさんある

所得も生産性も

誰もが自由で多様な働き方ができる

やりたい仕事がある・つくる

緩やかな集住

集約化を意識したインフラ構築

つくる

誰もが豊かさも、
働きがいも感じられる、
発展し続ける地域を

つくる
創造視点

お店が多い / 目指している職業の給料があまり高くない / 経済を支える労働人口が多い / いろんな職業を増やす / 伝統産業の発展 / 消費する場所が近くにある / 地域産業の発展 / 二地域居住をして自然の中で働く / 職業・就職先が広がる / 最低賃金を上げる / 公共交通の充実

エネルギー産業 / 起業 / 人的投資 / 省人化 / IT化 / 観光 / 儲かる農業 / 仕事 / 交流 / 学び / やりがい / 自信が持てるモノづくり / 空き家・空き店舗の活用 / アフター5 / オン・オフで自分の時間が充実 / 地元の産業・企業 / ジビエ / 地域ブランド / 地産地消 / 子育て休暇 / いきいきと働き安心して生活ができる / まちの集約 / 土地・農地のメリハリ

いいだ未来デザイン2028後期計画 素案(案)

－ 持続可能な社会を創造するための視点 －

若者からお祭りやイベントを盛り上げる

お助け・寺子屋都市飯田

Enjoy City Iida

参加者を増やす

“つながり”から生まれる地域

若者が地域とつながる・活躍する

交流する

安全に暮らせる

暮らしに“あたたかさ”を増やす

“頼れる人”がいる安心

「遊」を中心に置く

持続可能な自治会・公民館活動

「結い」が広がる地域

“つながって” “学ぶ” “飯田らしさ”

一人一人が「より良く」を考える

お互いに知り合う

参加する

みんなが織りなす祭りや文化

大人が子どもと、子どもが大人と
つながる

助け合いができる

安心・安全な生活基盤

防災力が高い

つどう

人々が参加し、 つどい、 活躍できる視点

挨拶、笑顔での関りを忘れない / 頼れる人がある安心 / 安心・安全 / 災害への対策 / 災害から守る / 人とのかわりが欲しい / 若者が集まれる / 若者がお祭りを盛り上げる / 若者の活躍できる機会の創出

持続可能な自治会・公民館活動 / 地域のコミュニケーション / 地に足のついた(都会化しない) / 町村連携強化 / 地域を広げる / 災害に強い / 安全(防災) / 安心・安全な生活基盤 / 助け合える / 帰ってきたくなるまち

いいだ未来デザイン2028後期計画 素案(案)

計画期間 について (案)

いいだ未来デザイン
2028後期計画
策定の考え方
(令和6年3月)

- 後期計画の始期は、中期計画の計画期間に鑑み、2025(令和7)年度とします。
- 一方、終期については、リニア中央新幹線の開通時期の不透明化、地域を取り巻く環境の変化への柔軟な対応や次期総合計画策定の柔軟性等を考慮し、新たな視点であるSDGsの考え方に基づく課題整理等の過程において、総合的に判断し、定めることとします。

第3回
いいだ未来デザイン
会議での議論
(令和6年5月16日)

- ー 会議録から三浦委員長のまとめを要約
- なんとも言えないという意見もいただいた。一番多かった意見は、4年間ということで2028年の意見をいただいた。
- 意見を3つに絞ると、
 - ① 現状は、変化が著しく、10年前に考えたことは10年前の思考であり、先が見えない中で、長くするのではなく4年が適当だろうという意見。
 - ② 継続性として、12年の計画で、4年×3というタイムスパンで来ている。最終年度である2028年まで取組を進め、その時点で見直しをし、次に繋げることが大切ではないかという意見。
 - ③ SDGsの視点で考えることは大切であるが、計画の期間を連動させて考える必要はないのではないかという意見。
- 本会議の意見として4年間、2028年までという意見が一番多かったことを、理由も含めて事務局に伝える。

計画期間(案)

- 2025(令和7)年度から2028(令和10)年度までの4カ年
- 《考え方》
- 取り巻く環境の変化が著しく、先が見えない現状では、基本計画の計画期間を長くするほど実効性の確保が困難になる。
 - 社会情勢に応じて、新たな施策を適宜適切なタイミングで進めたい場合に、その都度、基本計画の変更が必要となる。
 - リニア中央新幹線の開業は先になってしまったが、いいだ未来デザインがめざす8つのまちの姿の実現に向けて、足場をしっかりと固める、リニア時代に向けての礎を築くという考えから、後期計画の計画期間は4年間とする。

いいだ未来デザイン2028後期計画 素案(案)

● 基本目標を策定する際の留意事項

留意事項① いいだ未来デザイン2028に掲げるビジョンの達成

留意事項② 施策の戦略化・重点化を継続

留意事項③ 持続可能な社会を創造するための4つの視点及び基本的な考え方を大切にする

留意事項④ 中期計画3カ年の振り返りで明らかになった課題への対応

留意事項⑤ 多くの市民と共有するためのわかりやすさ

● 基本目標の策定に向けた作業 — 第1段階 基本目標の枠組みを定めるためのアウトラインの作成

持続可能な社会を創造するための視点

- ・自然(資源)を生かし・残す
- ・エネルギーの地消地産
- ・田園風景
- ・都市と自然のバランス

地域の資源を生かし・守り、
次世代につなぐ視点

誰もが豊かさも、働きがいも
感じられる、発展し続ける
地域を創造(つくる)視点

- ・新たな発想で変える
- ・イノベーション
- ・経済循環
- ・集約化を意識したインフラ構築

- ・暮らし
- ・「ひと」中心、主体
- ・自分らしさ
- ・支え合い

育て育ち学びあい、支え合い、
自分らしい暮らしを
つむぐ視点

人々が参加し、つどい、
活躍できる視点

- ・内外の「つながり」
- ・参加・活躍
- ・助け合い
- ・安全・安心

持続可能な社会を創造するための4つの視点から考える、新たな掛け合せ・組み合せ・組み替えのための枠組みのたたき台を検討

基本目標の枠組みを定めるためのアウトライン(仮置き)

魅力的な
産業づくり

シビックプライド
誇りと愛着
移住定住

こども若者
主体
生き抜く力

支え合い
地域福祉
市民総健康

循環型社会
自然を生かし
・残す
エネルギー

防災力向上
安全・安心
助け合い

リニア時代の
都市基盤
の整備

基本目標 の策定 イメージ

持続可能な
社会を創造
するための
4つの視点
及び
中期計画
振り返りを
踏まえた
基本目標
の策定に
向けて

いいだ未来デザイン2028後期計画 素案(案)

● 基本目標の策定に向けた作業 — 第2段階 中期計画3カ年の振り返りを踏まえた基本目標の枠組みの作成

いいだ未来デザイン2028に掲げる未来ビジョン及び人口ビジョンの実現

| 基本目標の枠組み |
|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|
| ねらい
○ |
| 戦略を定める
ための要素 |
| ⋮ | ⋮ | ⋮ | ⋮ | ⋮ | ⋮ | ⋮ | ⋮ |
| ⋮ | ⋮ | ⋮ | ⋮ | ⋮ | ⋮ | ⋮ | ⋮ |

基本目標の枠組みを定めるためのアウトライン(仮置き)



いいだ未来デザイン2028中期計画 3年間(令和3年度から令和5年度)の振り返り

後期計画の策定に際して考慮すべき環境変化や社会変容

人口減少及び人口構造の変化、新型コロナウイルス感染症の感染拡大による社会・価値変容、社会変革、リニアの開業時期不透明化、災害等への備えなど…

いいだ未来デザイン2028中期計画における13の基本目標

基本目標1	基本目標2	基本目標3	基本目標4	基本目標5	基本目標6	基本目標7	基本目標8	基本目標9	基本目標10	基本目標11	基本目標12	基本目標13
稼ぎ、安心して働ける「魅力ある産業」をつくる	飯田の魅力を発信し、つながる人を増やし、飯田市への人の流れをつくる	“結いの心”に根ざす教育を実践し、豊かな心とリニア時代を生きる力を育む	豊かな「学びの土壌」を活かした「学習と交流」を進め、飯田の自治を担い、可能性を広げられる人材を育む	文化・スポーツを通じて人と地域の輝き・うるおいをつくる	結婚・出産・子育ての希望をかなえる	「市民総健康」と「生涯現役」をめざす	共に支え合い、自ら行動する地域福祉を充実させる	20地区が輝く活き活きとした地域づくりを地域主体に進める	個性を尊重し、多様な価値観を認め合い、活動の場を広げる	地球環境への配慮が当たり前前回の暮らしとまちづくりの推進	災害や社会リスクに備え、社会基盤を強化し、地域防災力の向上を図る	リニア・三遠南信時代を支える都市基盤を整備する

基本目標の策定イメージ

持続可能な社会を創造するための4つの視点及び中期計画振り返りを踏まえた基本目標の策定に向けて

いいだ未来デザイン2028後期計画 素案(案)

● 基本目標の策定に向けた作業 — 第3段階 基本目標の枠組み、タイトル及びねらい

いいだ未来デザイン2028に掲げる 未来ビジョン及び人口ビジョンの実現

いいだ未来デザイン2028後期計画における基本目標の枠組み 素案

基本目標 の策定 イメージ

持続可能な
社会を創造
するための
4つの視点
及び
中期計画
振り返りを
踏まえた
基本目標
の策定に
向けて

タイトル	人を育て、 呼び込み 魅力的な産業 をつくる	市民が将来 にわたり 地域に誇りと 愛着を持てる まちづくり を進める	ここ 飯田で育て ・育ててよかつた と実感できる まちづくり	支えあい、 いきいきと 暮らす	自然を豊かにし、 循環を基本に 誰もが環境に 配慮した暮らし をおくる	自助・共助・公助 の役割を共有し、 それぞれの防災力 を高める	リニア・三遠南信 時代に選ばれる 地域を目指した 都市基盤を 整備する
ねらい キーワード 抽出	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 多様な働き方ができる環境づくり ✓ 地域産業を支える担い手の育成・確保 ✓ リニア・三遠南信時代を見据えた企業誘致 ✓ 地域アセットを活かした力強い産業づくり 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ まちづくりへの参画 ✓ 住み続けたいを持ち続ける ✓ 関係人口づくりや移住定住の推進 ✓ 市民活動団体等の支援 ✓ 当事者となる学習 ✓ 文化の継承と創出 ✓ 飯田の魅力の認知度向上 ✓ 魅力ある空間づくりと回遊性の向上 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ こども若者が生き抜く力を育む ✓ こども若者が個性を活かしのびのびと育ち笑顔が輝くまち ✓ こどもの権利と尊厳を守る ✓ こども若者の意見が政策等に反映されたことを実感できる。 ✓ こどもにとって家庭は最初の学校 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 認め合い、つながって支え合う地域共生社会の構築 ✓ 市民総健康・健康長寿のまちづくり ✓ 必要な時に必要な医療・福祉サービスが受けられる提供体制の維持 ✓ 健康増進計画、介護保険事業計画、地域福祉計画の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 環境文化都市の理念をより広く伝える。 ✓ 地域の自然を豊かにすることで自然資本を将来の世代に残す。 ✓ エネルギーの域産域消 ✓ 循環型社会の構築 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 公助の備え強化 ✓ 安全・安心な災害に強いまちづくり ✓ 自助の大切さの周知 ✓ 人と人のつながりを広め、共助の力を高める 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 土地利用計画の見直し ✓ 自然と調和した利便性の高い都市基盤の強化 ✓ 持続可能な地域公共交通 ✓ 地域課題の解決の手段としてのデジタル技術 ✓ 行政及び地域社会のDXを推進

※ 記載の順番が、直ちに基本目標の順番を示すものではない。

※ 枠組み=基本目標ではなく、市議会からのご意見やご提言、市民会議からのご意見等を踏まえ、基本目標を定める際の現段階(令和6年7月)でのアウトラインを示すものである。

いいだ未来デザイン 2028 後期計画 素案(案)

基本目標の枠組み個票

ー 基本目標を定める際のアウトライン ー

令和6(2024)年7月
飯田市

目次

タイトル	説明者 (関係部局等の長)	関係する 現在の基本目標	頁
人を育て、呼び込み魅力的な産業をつくる	産業経済部長	基本目標 1	1
市民が将来にわたり地域に誇りと愛着を持てるまちづくりを進める	市民協働環境部長 (企画部長) (産業経済部長) (教育次長)	基本目標 9 基本目標 10 基本目標 2 基本目標 4	2
^{ここ} 飯田で育て・育ててよかったと実感できるまちづくり	こども未来健康部長 (教育次長) (建設部長) (産業経済部長)	基本目標 6 基本目標 3 基本目標 4	3
支えあい、いきいきと暮らす	福祉部長 (こども未来健康部長)	基本目標 7 基本目標 8 基本目標 6	4
自然を豊かにし、循環を基本に誰もが環境に配慮した暮らしをおくる	ゼロカーボンシティ 担当参事 (リニア推進部長) (市民協働環境部長) (産業経済部長)	基本目標 11 基本目標 1 基本目標 4 基本目標 13	5
自助・共助・公助の役割を共有し、それぞれの防災力を高める	危機管理部長 (市民協働環境部長) (建設部長) (福祉部長)	基本目標 12 基本目標 8 基本目標 9	6
リニア・三遠南信時代に選ばれる地域を目指した都市基盤を整備する	リニア推進部長 (建設部長)	基本目標 13	7

1 基本目標の枠組みのタイトル及び関係する現在の基本目標

基本目標の枠組みのタイトル		
人を育て、呼び込み魅力的な産業をつくる		
関係する現在の基本目標	基本目標 1	

2 マネジメントリーダー(予定者)及び関係部局等の長

マネジメント	所属	氏名	関係する部局等の長	所属	氏名
リーダー(予定者)	産業経済部	市瀬 智章			

3 基本目標のねらい及び戦略を定めるための要素

基本目標のねらい＝後期4年間の取組の方向性
<ul style="list-style-type: none"> ○多様な働き方(起業や副業等)ができる環境づくりを応援し、地域産業を支える担い手の育成・確保に取り組みます。 ○リニア・三遠南信時代を見据え、企業の誘致に取り組みます。 ○地域のアセットを生かした、力強い産業づくりを支援します。
戦略を定めるための要素＝後期4年間の戦略の方向性
<ul style="list-style-type: none"> ・地域産業を支える担い手を育成・確保するため、若者に地域産業の魅力伝える取組、副業人材の活用に加え、リスキリングによる人材育成、起業支援等、子育て世代が暮らし・働きやすい環境整備を行います。また、就農相談会、地域おこし協力隊等の制度活用、高性能林業機械の導入等による一次産業従事者を確保するための取組を進めます。加えて、デジタル技術の活用による徹底した生産性の向上・業務の効率化を図ります。 ・リニア・三遠南信時代を見据え、産業用地等の整備やエス・バードの更なる活用を図り、地域の強みを活かした企業・オフィスの誘致に取り組みます。 ・企業の稼ぐ力を高め、地域産業の更なる成長を目指し、産業振興と人材育成の拠点であるエス・バードの機能を活用して、地域産業の高付加価値化・ブランド化に取り組むとともに、新たな産業分野への進出を支援します。 ・地域固有の風土(自然・歴史・文化)、人々の営み(生業・生活、コミュニティ)等の旅の目的地となる魅力や地域資源を活用して、持続可能なサステナブルツーリズムを推進するとともに、移住定住につながる関係人口の創出・拡大に取り組みます。 ・域内生産・域内発注・域内調達・域内消費により地域からの所得の流出を低減するとともに、循環型農業や主伐・再造林や搬出間伐の促進による森林循環を図り、地域内経済循環を推進します。

1 基本目標の枠組みのタイトル及び関係する現在の基本目標

基本目標の枠組みのタイトル		
市民が将来にわたり地域に誇りと愛着を持てるまちづくりを進める		
関係する現在の基本目標	基本目標 9	基本目標 2
	基本目標 10	基本目標 4

2 マネジメントリーダー(予定者)及び関係部局等の長

マネジメント	所属	氏名	関係する部局等の長	所属	氏名
リーダー(予定者)	市民協働環境部	橋本 力		教育委員会	秦野 高彦
				企画部	林 健吾
				産業経済部	市瀬 智章

3 基本目標のねらい及び戦略を定めるための要素

基本目標のねらい=後期4年間の取組の方向性
<p>○住民一人一人が地域課題に関心を持ち、まちづくりに参画する。</p> <p>○飯田に住み続けたいという思いを持ち続けてもらう。</p> <p>○地域と行政が一体となって、関係人口づくりや移住定住を推進する。</p> <p>○地域活動の協働的領域を担う市民活動団体やNPO法人等を支援し、地域を元気にする。</p> <p>○誰もが当事者（はまる・まきこむ・つくる）となる学習を支援する。</p> <p>○文化の継承と創出を図る。</p> <p>○多様な主体と協働で飯田の魅力を認知してもらう。</p> <p>○りんご並木の魅力ある空間づくりとまちの回遊性の向上を目指す。</p>
戦略を定めるための要素=後期4年間の戦略の方向性
<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の問題や関心事について、住民が主体的に課題解決に挑戦できる環境を整備し、地域を支える多様な人材の育成につなげます。 ・ 未来の担い手である子どもたちにとって「将来も住み続けたいまち」であるため、地域全体で子どもを育み、この地域に誇りと愛着を持ち続けてもらうための様々な取組を行います。 ・ 20 地区がそれぞれの多様な地域資源を活用し、魅力ある地域づくりに取り組むことで、関係人口の創出・拡大を目指す「20 地区田舎へ還ろう戦略」を、地域と行政が協働して進めます。 ・ 移住定住の推進に向けて、まちづくりの原動力となる若者に「選ばれる地域」となるための様々な取組を全市的に展開します。 ・ ムトスの精神による市民活動の輪を広げ、市民活動団体やNPO法人等による市民や地域が元気になる取組を支援します。 ・ 伝統文化を継承しながら、新たな文化を生み出す取組を支援します。 ・ 市民や事業者と共に行う地域の魅力発信活動により、地域全体の魅力や地域資源の価値を広く伝え、興味や関心を喚起することにより、「行ってみたい」「食べてみたい」「ここに住みたい」という思いを行動につなげます。 ・ りんご並木の魅力づくりをさらに進めるとともに、歴史・文化が感じられる中心市街地の既存ストックに磨きをかけることで、居心地が良く歩きたくなるまちづくりを推進します。

1 基本目標の枠組みのタイトル及び関係する現在の基本目標

基本目標の枠組みのタイトル		
こ こ 飯田で育て・育ててよかったと実感できるまちづくり		
関係する現在の基本目標	基本目標6	基本目標4
	基本目標3	

2 マネジメントリーダー(予定者)及び関係部局等の長

マネジメント	所 属	氏 名	関係する部局等の長	所 属	氏 名
リーダー(予定者)	こども未来健康部	山崎 由紀恵		教育委員会	秦野 高彦
				建設部	井田 光則
				産業経済部	市瀬 智章

3 基本目標のねらい及び戦略を定めるための要素

基本目標のねらい＝後期4年間の取組の方向性
<p>○こども若者が自らの未来デザインを自ら描き実現に向けて生き抜く力を育みます。</p> <p>○こども若者がありのままの個性を生かしのびのびと育ち笑顔が輝くまちを目指します。</p> <p>○こどもの権利と尊厳を守ります。</p> <p>○こども若者の意見が政策等に反映されたことを実感できるようにします。</p> <p>○こどもにとって家庭は最初の学校</p>
戦略を定めるための要素＝後期4年間の戦略の方向性
<ul style="list-style-type: none"> こども若者の意見が政策等に反映されたことを実感できるようにします。 未来あるこどもたちにとって「将来も住み続けたいまち」であるために、あらゆる地域資源（人、金、施設、伝統文化など）を活用して、地域全体でこどもを育み、この地域に誇りと愛着を持ち続けようとするための学びや体験・経験の機会の提供など様々な取組を実践します。 こどもが安心して暮らせる社会インフラの強化、通学路安全対策、公共施設整備等（全天候型親子等交流施設含む）をこども主体で検討します。 妊娠期から出産、産後ケアまで、求められる個々の支援ニーズに寄り添い、関係機関と連携して安心して出産、育児ができるよう効果的で途切れなく、デジタル技術も活用して気軽に相談できる環境を用いた相談支援を実施します。 身近な子育て支援の場として幼児教育・保育施設の機能の充実を図るとともに、こどもの育ちや保護者の子育てを支える保育士・保育教諭にやさしいまちを推進します。 幼児期から発達段階に応じた系統的な生き方教育（(仮称) いいだ未来創造教育（＝飯田型キャリア教育））の実践によるふるさと飯田に愛着をもって暮らし続ける人材の育成・「ムトスの学び」により、課題解決に向けて、失敗を繰り返しながらも、自分の未来を拓き、地域の未来を拓く創造的な学びを行います。 義務教育9年間の学びの「系統性と連続性」を高め、各学園で「教育目標」や「めざす児童生徒の姿」を共有して小中学校教職員が一体となり、飯田コミュニティスクールとして地域・家庭も協働して児童生徒の学びを支え、生き方教育でもある飯田のキャリア教育（仮称 いいだ未来創造教育）を特色に据えた教育活動を行うことで、子供が生涯にわたって生き抜く力の基礎を、これまで以上にしっかりと、豊かに育んでいくために、中学校区における小中一貫教育としての学園構想を推進します。

1 基本目標の枠組みのタイトル及び関係する現在の基本目標

基本目標の枠組みのタイトル		
支えあい、いきいきと暮らす		
関係する現在の基本目標	基本目標7	基本目標6
	基本目標8	

2 マネジメントリーダー(予定者)及び関係部局等の長

マネジメント	所属	氏名	関係する部局等の長	所属	氏名
リーダー(予定者)	福祉部	林 みどり			こども未来健康部

3 基本目標のねらい及び戦略を定めるための要素

基本目標のねらい=後期4年間の取組の方向性
<p>○お互いが認め合い、地域や社会とつながって支え合う「地域共生社会」を構築し、地域や行政等の多様な主体が一体的に役割を發揮して健康と福祉を推進します。</p> <p>○市民総健康・健康長寿のまちづくりを推進し、健康寿命の延伸と社会保障費の抑制を目指すとともに、必要な時に必要な医療・福祉サービスが受けられるように、提供体制の維持に努めます。</p> <p>○市民一人ひとりが心身ともに健やかに生涯現役で活躍できるように飯田市健康増進計画と飯田市介護保険事業計画を推進し、住み慣れた地域で共に暮らせるよう、飯田市地域福祉計画を推進します。</p>
戦略を定めるための要素=後期4年間の戦略の方向性
<ul style="list-style-type: none"> ・地域コミュニティの活性化により高齢者の孤立を防ぐとともに、世代間交流を通じて高齢者の技術や知恵を子どもたちに伝承できるよう「高齢者も一緒に地域のこどもを地域で育てる」意識醸成に取り組めます。 ・福祉課題を抱えた市民の孤立を防ぐため、多様な主体が連携して問題解決を目指す仕組みを構築し、世代や属性を超えた交流の場や個々のニーズに応じた居場所を整備するとともに、アウトリーチ等を通じた支援を充実します。 ・障がいを正しく理解しお互いに認め合い、一人ひとりの人格や個性が尊重されるように、いいだ障がい福祉プランを推進します。 ・高齢者が地域や社会の中で役割を持ち、様々な場面で活躍できることが「生きがい」となり、豊かな人生につながることから、できる範囲での社会参加の大切さを啓発します。 ・健診受診等の機会を捉え、働き盛り世代から自身の健康維持や健康増進の取組を推奨し、生活習慣病の発症及び重症化予防と将来の介護予防を推進します。 ・生活習慣病や歯周病等を予防するために、全世代に向けて、毎日の生活習慣を整えることの重要性を発信し、年代に応じた健康意識の向上と健康づくりの意識醸成に取り組めます。 ・医療・介護サービスの提供体制を維持するため、側面的支援として担い手の確保や従事者の離職防止に取り組めます。 ・自分らしく満足できる生活の実現に向けて、意欲的に健康づくり、介護予防、重度化防止に取り組むことができるよう、高齢者の「やりたい」気持ちを引き出す仕組みの充実を図ります。

1 基本目標の枠組みのタイトル及び関係する現在の基本目標

基本目標の枠組みのタイトル		
自然を豊かにし、循環を基本に誰もが環境に配慮した暮らしをおくる		
関係する現在の基本目標	基本目標 11	基本目標 4
	基本目標 1	基本目標 13

2 マネジメントリーダー(予定者)及び関係部局等の長

マネジメント	所属	氏名	関係する部局等の長	所属	氏名
リーダー(予定者)	ゼロカーボンシティ担当課	下井 善彦		市民協働環境部	橋本 力
				リニア推進部	小倉 博明
				産業経済部	市瀬 智章

3 基本目標のねらい及び戦略を定めるための要素

基本目標のねらい＝後期4年間の取組の方向性
<p>○市民一人一人が飯田市を誇りに思えるよう、環境文化都市の理念をより広く伝えます。</p> <p>○環境にやさしい暮らし自然を活かした暮らしを实践、生活をより豊かにし、地域の自然を豊かにすることで自然資本を将来の世代に残します。</p> <p>○地域ぐるみでエネルギーの域産域消に努め、需要と供給をベースに行動経済学を考慮した活動で循環型社会を構築します。</p>
戦略を定めるための要素＝後期4年間の戦略の方向性
<ul style="list-style-type: none"> ・環境文化都市づくりプラットフォーム「うごくる。」を通じて、環境文化都市づくりのコンテンツの充実を図り、意識の高い人だけではなく、「無関心層」へのアプローチや若者の行動変容を促します。 ・サーキュラーエコノミー（循環型経済）の観点から、新たなリサイクルを取り入れた3Rをさらに徹底するとともに、消費者、供給者に対しても循環型社会について理解を深めます。 ・2050年ゼロカーボンシティ実現に向けて、見える化などデジタル技術を活用したエネルギーの効率的利用及び省エネルギーを促進し、地域産エネルギーの利活用を促進するとともに、脱炭素な生活様式への転換を図ります。 ・信州大学のグリーン水素・水循環の実証タウン事業に参画、社会実装を目指し、イノベーションによる新産業の創出やGX推進に取り組みます。 ・ネイチャーポジティブの実現を目指し、生物多様性への理解を深めるとともに、地域の豊かな自然環境を活用するため、地域の守るべき自然環境の調査を行い、その保護及び利活用について検討します。 ・動脈、静脈を考慮した資源物流について、循環のあり方を検討し、物流川上や関係機関に働きかけます。

1 基本目標の枠組みのタイトル及び関係する現在の基本目標

基本目標の枠組みのタイトル		
自助・共助・公助の役割を共有し、それぞれの防災力を高める		
関係する現在の基本目標	基本目標 12	基本目標 9
	基本目標 8	

2 マネジメントリーダー(予定者)及び関係部局等の長

マネジメント	所属	氏名	関係する部局等の長	所属	氏名
リーダー(予定者)	危機管理部	岡本 佳宏		市民協働環境部	橋本 力
				建設部長	井田 光則
				福祉部	林 みどり

3 基本目標のねらい及び戦略を定めるための要素

基本目標のねらい＝後期4年間の取組の方向性
<p>○大規模災害を想定した「公助」の備えを強化し、安全・安心な(災害に強い)まちづくりを進めます。</p> <p>○「自助」の大切さを市民一人ひとりが認識でき、人と人のつながりを広め「共助」の力を高めていく取組を進めます。</p>
戦略を定めるための要素＝後期4年間の戦略の方向性
<ul style="list-style-type: none"> ・地域における防災学習や幼少期から防災理解を深める取組などを進め、自助・共助の意識高揚を図ります。 ・人と人のつながりを広め、共助による地域防災力を高める取組を支援します。 ・高齢者や障がい者など特に配慮が必要な方が災害時に安全に避難し、安心して避難生活ができる環境整備に取り組みます。 ・地域防災力の要である消防団の体制を整備するとともに、消防詰所や車両等の適正配置の検討を進めます。 ・平時におけるデジタルコンテンツを活用した防災学習や大規模災害発生時に備えた防災DXに取り組みます。 ・自然災害に備え、市民の安全・安心で災害に強い社会インフラ整備を計画的に進め、防災・減災・国土強靭化を図ります。

1 基本目標の枠組みのタイトル及び関係する現在の基本目標

基本目標の枠組みのタイトル		
リニア・三遠南信時代に選ばれる地域を目指した都市基盤を整備する		
関係する現在の基本目標	基本目標 13	

2 マネジメントリーダー(予定者)及び関係部局等の長

マネジメント	所属	氏名	関係する部局等の長	所属	氏名
リーダー(予定者)	リニア推進部	小倉 博明		建設部	井田 光則
				企画部	林 健吾

3 基本目標のねらい及び戦略を定めるための要素

基本目標のねらい＝後期4年間の取組の方向性
<p>○「リニアの整備効果を地域振興に活かすビジョン(案)」の実現に向け、リニア・三遠南信時代を見据えた土地利用の検討を行い、住民との合意形成を図りながら土地利用計画の見直しを着実に進めます。</p> <p>○リニア中央新幹線や三遠南信自動車道を利用した方が、何度でも訪れたいような地域として、自然と調和した利便性の高いリニア駅前広場や広域的道路ネットワーク等の都市基盤の強化を着実に進めます。</p> <p>○持続可能な地域公共交通の構築を目指し、公共交通のあり方について関係機関等と協議を進めます。</p> <p>○DXはまちづくりのあらゆる分野に共通する視点であり、複雑化、多様化する課題の解決の手段としてデジタル技術を活用し、行政及び地域社会のDXを推進します。</p>
戦略を定めるための要素＝後期4年間の戦略の方向性
<ul style="list-style-type: none"> ・リニア・三遠南信時代を見据えた土地利用のあり方について、全市的な視点で検討し、まずは交流圏内における「リニアの整備効果を地域振興に活かすビジョン(案)」の実現に向けた土地利用上の喫緊の課題から取り組みます。 ・県内唯一のリニア中間駅として、リニア中央新幹線や三遠南信自動車道の整備効果を地域振興に活かすため、広域的道路ネットワークの強化を図るための関連道路等の整備を進めるとともに、リニア開業の遅延に関わらず訪れたいような地域を目指して、自然と調和した利便性の高いリニア駅前広場の整備を進め、リニア開業を見据えた産業立地選択や居住地選択等において選ばれる地域の形成を目指した都市基盤の整備を推進します。 ・リニア駅前広場の活用は、関係機関と整備スケジュールの整合を図り、関係者等の意向や環境影響等に十分配慮し、一部供用しながら段階的な活用を目指します。また、リニア中央新幹線・三遠南信自動車道の気運が低下しないよう、市民に向け適時適切に情報を発信します。 ・目的地へスムーズにいざなうことができる次世代モビリティやデジタル技術を活用した二次交通の検討を進め、路線ごとの利用特性、ニーズを把握し、利用者目線の持続可能な地域公共交通を構築します。 ・デジタル人材の育成やデータ基盤の整備などDXを支える基盤の構築に取り組みます。